

震災を後世に語り継いでいこう



修復がすすむ熊本城。地震の怖さをあらためて感じた。



子ども記者レポート

神戸 熊本

◆兵庫県神戸市

- 人と防災未来センター
- 安心コミュニティプラザ 風の家

◆熊本県熊本市、益城町

- 熊本城
- 益城町役場仮設庁舎
- 益城町 布田川断層帯
- 益城町 テクノ仮設団地
- 益城町 広安小学校区 自主防災クラブ

過去の震災から
学んだ教訓を
防災・復興につなげよう

子ども記者は東海地方に住む小学6年生11人。この7月にまず、神戸市中央区の「人と防災未来センター」を訪れました。1995年1月17日未明に起き、6,434人が亡くなった阪神・淡路大震災を再現した迫力たっぷりの映像を見て、肝を冷やしました。同市灘区では地震で焼け跡となった地に建てられた地域コミュニティの活動の場「風の家」を見学しました。

熊本市では、2016年4月14日と16日のいずれも夜間に起きた大地震で大きな被害が出た熊本城に行きましたが、復興までにはまだ長い歳月がかかることが記者の目で確認できました。また被害の大きかった益城町では、大規模な仮設住宅団地でのボランティア活動の様子や、避難所での援助活動がもとになって自主防災クラブが生まれたことなどを取材しました。

気象庁の観測史上初の震度7を記録した23年前の阪神・淡路大震災。震度7が続けて2度起きた2年前の熊本地震。2つの地域では、大震災を未来へ語り継ごうという活動が盛んです。今年の子ども記者は、地震の教訓を発信している神戸市の「人と防災未来センター」や、熊本地震で被害の大きかった熊本県益城町の仮設住宅などを取材しました。益城町では神戸での阪神・淡路大震災でも芦屋市職員として対応を経験した今石佳太さんが防災の責任者として活動しており、記者たちは2つの震災が重なっていることを知りました。

広告特集

子ども新聞プロジェクト 2018

子どもたちが取材、編集して新聞にまとめます。「気づき・考え・実行する」大切さを、同じ世代の子どもにも伝え、より多くの子どもたちが新聞を読んで、行動する力を育ててほしいと願っています。

企画：日本赤十字社愛知県支部
岐阜県支部
三重県支部

朝日新聞社
制作：朝日新聞社メディアビジネス局
後援：愛知県教育委員会
名古屋市教育局
愛知県小中学校長会
名古屋市立小中学校長会

朝日新聞

僕らの言葉で、未来に伝える

青少年赤十字では、全国の幼稚園、保育園、小中高など学校教育の現場で「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解親善」を実践目標として、子どもたちが自分で「気づき、考え、実行する」力を育てています。義務教育を通じて震災の経験を次世代に伝えていくという理念に共感した企業の皆さまによって、子ども新聞プロジェクトの財源の一部が支えられています。

生きる力を育む青少年赤十字

青少年赤十字では、「気づき・考え・実行する」ことを通して、自ら学び考える力を育てます。赤十字には国内外にネットワークがあり、様々な人とつながることができます。誰もが持っている優しさや思いやりの心を引き出すために、青少年赤十字の一員になりませんか。

豊橋市立汐田小学校 小松 令先生

